

教師の活用

授業のツールとして、先生が使う！！
ICTの機能：視覚化、焦点化、共有化

ICT（電子黒板やプロジェクタ、実物投影機、タブレットPC等）を活用して、より分かりやすい授業ができる。これは、学びのUD化を支える重要な視点である。このようなICTの特長を最大限に生かし、「一斉指導による学び（一斉学習）」に加え、「子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）」や「子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）」などの多様な学びを進めることができる。

単にICTを活用して提示するのではなく、「教材としての価値があるかどうか」を考えながら提示する教材等を精選することが重要である。

興味・関心を高める

↓

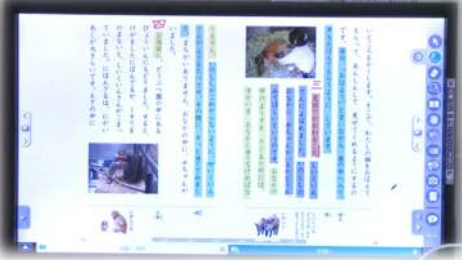
課題把握を明確にする

↓


思考や理解を深める

↓

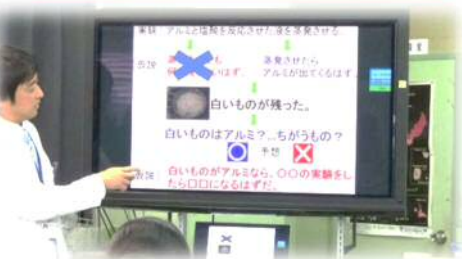
知識の定着を図る



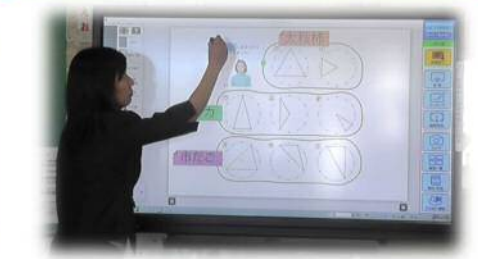
教科書と同じ画像の提示




電子黒板を利用した学習ゲーム




前時の学習を整理して提示



比較することによる新たな気づき



考えを全体で共有



実際に見せられないものを見せる

フラッシュ型教材

① テンポ良く。	→	・ 顔があがる。
② 短い時間で。		・ 緊張感が生まれる。
③ 繰り返し使う。		・ 集中する。
④ たくさんほめる。		・ 自信がつく。

短い時間でテンポよく繰り返すことで、知識の定着を図る

子どもの活用

学習活動のツールとして、
子どもたちが使う！！

電子黒板やプロジェクタ、実物投影機を活用して考えの共有化を図ったり、タブレットPCを活用して、自分と友だちの考えを比較・検討したりすることができる。
ICTの特長を生かした授業設計を行い、効果的にICTを活用することは、児童の主体的な学びにつながる。事前にどのような使い方をさせるのか、授業設計をする上で入念に検討する必要がある。

検討のポイントとしては、例として次のような点があげられる。
・ タブレットPCを活用する場合、グループに1台か一人に1台か。
・ どのような学習過程で子どもたちが使うのか。
・ 子どもたちはどんなコンテンツを使うのか。 など

情報を収集・選択する

↓

考えをまとめる

↓

考えの共有化を図る

↓

個別学習に取り組む



実験の様子を撮影・記録



友達の実技を撮影・観察



タブレットPC上で図形を操作



タブレットPCに考えをまとめる



電子黒板を使った発表



グループでの教え合い



タブレットPC上の問題を選択



タブレットPC上で問題を解く